



幌東中学校

Thanks Mail 〔高橋動物病院〕

先日の「総合の日」には職場訪問させていただきましてありがとうございました。未熟な私達のために貴重なお時間をさいいただき、みなさまにはいろいろと親切にご指導いただき、感謝しております。檻の中の掃除、シャンプー、診察の様子、手術の様子などを学ばせていただき、貴重な経験をすることができました。簡単ではありますがお礼を申し上げます。ありがとうございました。

札幌市立幌東中学校 2年 M.F./Y.S./N.U



高橋動物病院

「寂しがって、鳴いていたよ」

病院のスタッフの方の一言に、疲れ切っていた3人の表情がフツと和みました。午前中いっぱいかかって、ブラッシングからお風呂にシャンプー、トリミングをしてあげた、キャバリア犬の“キャバちゃん”が、みんなの姿が見えなくなったとたん寂しそうにずっと鳴いていたのです。男女3人の生徒がこの日訪れたのは、開業して37年になる高橋動物病院です。

午後は診察体験。副院長さんの指導のもと、心臓を患っているシーズ犬、チャメちゃんの診察をお手伝いしました。皆、大の動物好きとあって、ICU(集中治療室)に入院中のチャメちゃんの体を支える3人の手と眼差しは、優しくそし



て真剣そのもの。「こんな小さな子が、重い病気なんですね」動物病院の大きな使命である、“命を預かる”ということの重みを少し実感したようです。

長い一日が終わりに近づいたころ「働くことが、こんなに大変なことだったなんて…」こんな感想が出てきました。朝からずっと立ち通しで休む間もなく動きまわっているスタッフのみなさんの姿に、尊敬の眼差しをそそぎながらも、今日一日でかなり疲れた様子の3人。それ



でも、将来の夢をたずねるとパツと瞳が輝き、「動物園で働きたい」「私は結婚式場」「僕はゲームプログラマー」といきいきとした表情で答えてくれました。

“働くことは、自分自身を生きること”

— 人生の先輩の姿に、夢を新たに誓う

「この方たち、すごいんです」「本当に尊敬します」やや興奮気味に報告してくれたのは、5人の少女たち。彼女たちがこの日訪れたのは、札幌市芸

術文化財団が運営する札幌市民ギャラリーです。

一年を通じて公募展をはじめ、数多くの展覧会が開催されるこの施設で働く職員のみなさんと、午前中に行った対話での出来事です。

「職員の方に仕事をして辛かったこと、辞めたいと思ったことはありますか?とお聞きしたら、みなさん口をそろえて“自分の好きなことを仕事にできたから幸せ。つらいと思ったことも、辞

めたいと思ったことも一度もない”っておっしゃるんですよ」

将来の夢を聞くと「漫画家」「声優」「パティシエ」「私も漫画家か声優になりたい」と晴れやかな笑顔でハキハキと答えてくれる5人の少女たちの瞳には、一足先に夢を叶えた人生の先輩たちがとても眩しく輝いて映ったようです。

午後は彫刻師の先生の指導のもと、木彫りの鍋敷き作りにチャレンジしました。ハキハキとした活発な彼女たちらしく、デザインもそれぞれ個性的です。みんな「物を作るのが大好き」とのことで、作業の間中楽しい会話が絶えませんでした。



札幌市民ギャラリー



「仕事も勉強もね、生きるということの極意はみな同じなのです。どんな小さなことでも、単調でつまらないと思えるようなことでも、ひたすらに丁寧にやり続けることです」柔らかな表情で語る住職の言葉に真剣に耳を傾けているのは、男女5人の生徒。講話されているのは、建立92年の日蓮宗・顕本寺の白部住職です。

午前中は庭掃除と住職の講話。午後は抹茶とお菓子をいただいたあと、写経を行いました。「お寺を訪れるのは、生まれて初めてです」という生徒もいるなか、静かに穏やかに進んでいった職業体験。大きなものを得た一日だったようです。

特に住職の講話に深い感銘を受けたという意見が多く、「今までの人に対する考え方が変わった」「自分の内面を見つめることの大切さを学んだ」と口々に感想を述べます。我が子を見つめるような、慈愛のこもった眼差しで生徒たちを見つめていた住職は、最後にこんな言葉を贈ってくださいました。「中学は、人生の中でもとても重要な時期。いろいろなことを経験して考え、精神を強くして、倦まず弛まずご自分自身を作っていくくださいね」

静かに穏やかに過ぎた一日に5人は大満足の様子で、書きかけの写経の紙を「家で完成させて、お寺に持ってきます」と大事そうに持ち帰っていました。



日蓮宗 顕本寺

“命を預かる”ということ — 優しさと厳しさ

“住職に学んだ人生の極意”

— どんな小さなことでも、ひたすらに丁寧にやり続けること



日章中学校

Thanks Mail 【栞松本フラワー】

先日職業体験をさせていただいてありがとうございました。私はこの体験で学んだことがたくさんあります。お仕事をすることの大切さや責任、やりがいなどです。

最初は水切りの作業がうまく出来なかったのですが、時間がたつにつれてだんだん出来るようになってきたときは、とてもうれしかったです。松本さんがまだ使えそうな花を捨てているのを見て、「お客さんに少しでも傷んだものは渡せないから」と聞いた時とても驚きましたし、お仕事をするととても大事な事なのだと学ぶことができました。将来、お仕事をするとときには、今回学んだたくさんのお仕事を生かしていきたいと思えます。

札幌市立日章中学校 2年 M・S



“命を救う” — 仕事に誇りと生きがい

「キット〜!」「はやいっ!ついていけないよ!」少年たちの悲鳴が上がるたび、ドツと笑いがわき起こります。

男子生徒5人が訪れた白石消防署での職業体験のひとつ、筋力トレーニングで的一幕です。あっという間に音をあげてしまった5人は、きついメニューを軽々とこなしていく職員さんの姿に、すっかり感心した様子で見つめていました。

次はいよいよ実際の装備。シルバーの防火帽、防火衣、空気呼吸器（ボンベ）など約20kgの装備に身を包んでの放水体験です。ホースの重さは、およそ8kg。「うわぁ〜重い!」とやぶらつきながらも、一生懸命に訓練を受けています。放水の次は、はしご車に乗せて

もらい15mほどの高さまで昇りました。ここでも生徒たちの歓声がにぎやかに響き、どの体験も楽しくてたまらない様子です。

「体験を受けて職員の方々の話を伺ったりするうちに、次第に消防士という仕事に興味がわいてきました」と興奮気味に話してくれる生徒もいました。そんな生徒に、「人の命を助ける仕事」がしたくて消防士になったという職員の方が、「無事救助が出来たときは本当に嬉しいもの。けれど、一方で救えなかった命の重さというの、日々噛みしめながら仕事に臨んでいるんですよ」と話してくださいました。少年たちの表情がキリッと引き締まった瞬間でした。



白石消防署

白石保育園

溶け込むのも、あっという間。白石保育園を訪れた、男子生徒6人の活躍ぶりには、思わず目を見張るものがありました。

「最初は緊張しました」と言うものの、一生懸命に遊んでくれる「優しいお兄ちゃんたち」は、瞬間に園児たちの人気者に。広い園内を駆け回って遊ぶ、生徒と園児たちの歓声が園いっばいに響いています。なかには優しいお兄ちゃんが大好きになって、しがみついて離れようとしないうる愛らしい姿も。自ら進んで乳児担当になった男子生徒は小さい子が大好きで、保育士になりたいというだけあり、食事の世話やあやし方も堂に入ったものです。

伝ったりと“陰”の仕事も体験しました。今日一日大活躍だった少年たちへ、主任さんがこんな風に話してくださいました。「大切なお子さんの安全や健康を守るためにも、こうした陰の仕事にも真心こめて手は抜かないんです。それは、どんな仕事でも同じ。目立たない小さな仕事や気配りにこそ仕事の命は宿っているのかもしれないね。好きなことを仕事にしたいのなら、なおさら、嫌なことも乗り越えられる強さも身につけて」

少年たちは、慣れないながらも、一心に丁寧な手つきで作業に没頭していました。



“好きだけでは務まらない”
— 陰に隠れた小さな仕事にも命は宿る

栞松本フラワー



レンジメント作りにはチャレンジです。華やかなピンクや、パステルカラーのグレースーションと、それぞれに個性とセンスがいきいきと表れます。生まれて初めて自分の手で作った花束を手に、満ち足りた笑顔の少女たち。「パティシエ」「保育士」「私は情報関係」と、それぞれの将来をすでに決めているしっかり者の3人を「どんな仕事でも、つらいこと嫌なことは必ずある。でも決めて厳しい仕事から逃げたらいけない。そこを超えれば先はどんどん見えてくるんですよ」と、奥様が励ましてくださいました。

人生の先輩からの頼もしいエールに、「絶対に夢をかなえようね」というように、3人はしっかりとうなずいていました。

3人の少女が訪れたのは、開店して35年のお花屋さん、松本フラワーです。午前中は花の水切りや交換、種類ごとに花の名前と日付を書いて整理と、地

味な作業が続きました。でも「外から見ただけでは分からない、花屋さんの裏側の仕事を見てみたかった」と話す3人だけあって、作業はとても熱心で丁寧なものです。「真面目に丁寧に仕事をする、とても良いお嬢さんたちですね」と店長の奥様も目を細めます。午後はいよいよ、花束と、フラワーア

“厳しい仕事から逃げたらいけない!”
— そこを超えれば、先はどんどん見えてくる



白石中学校

Thanks Mail 〔上田農園〕

このたびは、総合的な学習の白石でっち奉公で職業体験をさせて頂き、誠にありがとうございました。普段では決して体験できないような鶏の餌やりや採卵の体験は、非常に興味深く、また楽しいものでした。

鶏を育てるにあたって、鶏の視点で見た、少しでもストレスが無く、健康的に暮らせる環境を作るという考えは、質より量を求める世の中で、忘れてはならない事だと思いました。他にも意外な体験があり、全てにおいて素晴らしいでっち奉公だったと思います。

札幌市立白石中学校 2年 S・H

(有)丸高ドライクリーニング工場

「洋服と会話をしながら仕事をするんですよ」

「会話ですか?」

「そう、たとえば年代物で裏地もボロボロになったような洋服なら、“何代も人の手に渡って、大切に着てこられ、本当に幸せな洋服ね”とか」

スタッフの方の話に、男女2人の生徒は「すごいなあ」と感心していました。

2人がこの日訪れたのは、創業53年の老舗クリーニング店、丸高ドライクリーニングです。

朝一番には、社長さんが用意してくれた本物のタイムカードを、「人生初です」とうれしそうに押しってみました。社長さんのお話を聞き、お店の掃除で午前中の作業がひと段落。次はいよいよ自宅

から持ってきた自分の制服を、ドライクリーニングしてみる作業に入ります。「自分の服がどんな過程で綺麗になっていくのか、とても楽しみです」と話す2人は、作業に没頭していました。

「前向きに明るく、これからの道を歩いて行ってね。あと、人に優しく。そして辛いことがあったら、一人で抱え込まず周りの人に助けを求めてね。苦しい時は、泣いたっていいの。でも流すなら温かい涙を流して。後ろ向きじゃない温かい涙を流したあとは、人は大きく成長できるものですよ」一生懸命作業をした2人に、職員の皆さんが話してくださいました。2人は「はい」と、うれしそうに元気よく返事をしていました。

“幸せな洋服” — 流すなら温かい涙を流して

“認知症は素敵です”

— 生きるということの意味を日々学ぶ

2人の男子生徒が訪れたのは、オープンして7年になる、認知症対応型共同生活介護施設、グループホームあさひの家です。

朝はまず、自己紹介のあと、67歳から97歳まで、27人の入居者の方と一緒にラジオ体操、職員の方の洗濯物のお手伝い。それが済むと、1階と2階にそれぞれ分かれ、入居者の方に絵本を読んであげたり、一緒にジグソーパズルを楽しんだり笑顔を決やらず、大張り切りの2人です。

孫のような年齢の少年たちの熱心な姿に、入居者の方たちも自然に笑みがこぼれます。「介護の仕事にとても興味がある」と真剣な表情で口をそろえる2人は、職員の方々に「やりがいも大きいとは思いますが、とても大変な仕事では

ないですか?」と大きな質問をぶつけてみました。すると、一人の職員さんから意外な言葉が返ってきました。

「語弊があるかもしれないけれど、認知症ってね、“素敵”なんですよ」他の職員の方々も「そうそう」と口をそろえます。

「急に怒られたり、つねられたり、大変なことはもちろんですけど、ふと、昔のご自分に戻るときもあって、そんなときには、いろいろな方の人生の深さを垣間見る思いで、日々“生きる”ということの意味を何かしら学んでいける仕事ですね」

その言葉に、なにか大きなものを得た表情で、少年たちは笑顔を交わしていました。



グループホームあさひの家



上田農園

らって生徒たちは大満足でした。

農園経営への興味も大きい様子で、上田社長に次々と質問を浴びせる一幕もありました。

「農園をやっていて、良かったと思うときは、どんなときですか?」

「農業をはじめのきっかけは?」

「この仕事で、一番大変なことは何ですか?」

生徒たちの質問の一つ一つ丁寧に答えてくださった上田社長は、最後に目を細めて「農業や養鶏は、先人たちの知恵に多くを学びながらも、絶えず創意工夫と研究心を忘れず新たな道を切り開いていく、とてもやりがいのある仕事です。一人でも多くの若者が興味を持ってくれたら嬉しいですね」と言われました。

午前中は、上田社長からのお話を聞いたあと、ビニールハウス設置のお手伝い。午後はいよいよ本題である、鶏の餌やり、卵採り、卵の洗浄を体験しました。自然養鶏にこだわる同農園では、風通しの良い大きな鶏舎に約350羽の鶏を飼っています。広々とした鶏舎の中を自在に歩きまわっている鶏たちは想像以上に大きく、最初は少年たちも戸惑った様子。でも、いったん中に入ってしまおうと楽しそうに餌をやり、まだほんのりとぬくもりの残る卵を拾い集めました。最後まで弾けるような笑顔が絶えることなく、お土産に産み立ての卵をも

突き抜ける青空のもと、広大な農園に5人の少年たちのにぎやかな話し声が響いています。5人の男子生徒が訪れたのは、70年近い歴史を持つ上田農園。農業の他に、有精卵での養鶏業を営まれています。

“創意工夫と研究心”

— 先人に学びながら、新たな道を切り拓いていく